

平成 31 年 2 月 7 日

世田谷区立船橋希望中学校
校長 菅 野 茂 男 様

世田谷区立船橋希望中学校
学 校 関 係 者 評 価 委 員 会
委員長 鈴 木 滋

平成 3 0 年度 学校関係者評価結果報告書

学校関係者評価委員会において「学校評価システム」に基づき、関係者アンケート調査の結果の分析や自己評価の結果及び日常の教育活動・校外活動等について総合的な評価を行い、以下のとおり報告書を作成いたしました。

今後の教育活動及び学校運営にご活用いただき、船橋希望中学校（船橋希望学舎）がより一層発展されることを委員会一同、祈念いたします。

☆ 関係者アンケート調査結果の分析の観点と評価について

1、「とても思う」「思う」の割合の合計を「肯定的評価」と捉えた。

「肯定的評価」の割合が、生徒は 60%以上、保護者は 50%以上の項目を、「評価が高い項目」とした。また、生徒は 80%以上、保護者・地域は 70%以上の項目と、「とても思う」の割合が 30%以上の項目については、「特に評価が高い項目」とした。

2、「あまり思わない」「思わない」の割合の合計を「否定的評価」と捉えた。

「否定的評価」の割合が、生徒・保護者・地域ともに 25%を超える（4人に1人が否定的）項目を、「課題がある項目」とした。また、40%を超える項目や「思わない」の割合が 20%程度の項目については、「特に課題がある項目」とした。

3、「分からない」の割合については、25%を超える項目に注目した。

「分からない」の割合が多い原因を検討するため、生徒については、校長・副校長及び教職員に意見を求めた。また、保護者については、アンケートの「記述式のまとめ」や保護者会等での資料など、学校の広報の状況を参考にして分析した。

4、船橋希望中学校の前年度アンケート調査結果と比較して検討した。

本校の目標や達成するための取り組みを適切に評価するため、アンケート集計結果の分析については、以下の3点で評価した。

- ① 基本的には昨年度のデータと比較検討し、昨年度と同様、上記の規準により評価した。この報告書のカッコ（ ）内の数値は、昨年度の数値である。
- ② 生徒は 60%以上、保護者は 50%以上の「評価が高い項目」であっても「否定的評価」の割合が 25%を超える項目については「課題がある項目」と捉えて分析をした。
- ③ 学年毎の生徒と保護者の評価については、学年進行を考慮した比較検討も行った。2年生で1年生のデータと比較検討を行った場合、1年生のデータは《① 》と表記した。3年生で2年生と1年生のデータと比較検討を行った場合も同様で、1年生のデータは《① 》、2年生のデータは《② 》と表記した。

5、保護者アンケートの「記述式のまとめ」の内容については、1人の意見を重視しすぎて、全体の状況を見誤らないように配慮した。また、少数ではあるが重要だと判断した意見については、分析に活用することとした。

☆ アンケートの回収率について

アンケートの回収率については、生徒 95.3%（29年度 95.3%）（28年度 95.3%）、保護者 75.2%（29年度 78.9%）（28年度 65.0%）、地域 45.7%（29年度 51.4%）（28年度 24.0%）であった。

生徒は、昨年度と同率の回収率であった。生徒の回収率については、ここ3年間の推移はないが、100%になるよう、さらなる生徒へのアプローチを検討されたい。

保護者は、回収率の目標である70%を超え、一昨年度を上回ったが、昨年度よりは低下した。回収率の向上に向けた広報活動・情報提供になお一層の努力を願いたい。

地域は、この2年間にわたって地域関係者への配布先の見直しを行い、配布数を限定した。しかし、今年度45.7%であり、昨年度を超える回収率には至っていない。今後とも学校教育への参画による関係者の意見が反映され、生徒の社会的自立に必要な力をはぐくむ教育をより一層充実させるとともに、改善に直接つながる姿を見ていただくことが船橋希望学舎の使命であると考えている。

未来ある若者とともに「どんな人にとっても住みよい街—船橋希望」であり、「地域とともにある学校」として、アンケートのさらなる配布数と回収方法等を改善し、高い回収率を維持されたい。

<評価項目に沿った評価>

☆ 関係者評価・教職員の自己評価等を基にした本校の成果と課題

I、重点目標への取組について

生徒は、「8 重点目標および数値目標（独自項目）」のうち、学校教育目標について(1)「私は、友達など他の人たちを、認め合い、励まし合おうとする気持ちがある」、(2)「私は、深く考えて行動しようとする気持ちがある」、(3)「私は、磨きあい、高め合おうとする気持ちがある」の項目で、保護者及び地域は、「学校運営について」の(1)「学校の重点目標が明確である」の項目で評価した。全般的には「評価が高い項目」である。

教育目標の周知とその定着への取り組みについては、生徒に浸透している。特に、「8 重点目標及び数値目標について」(1)・(2)については、教職員の働きかけにより、日常生活や特別活動等の取り組みを通して成果が見られる。しかし、(3)は「評価が高い項目」あるが、77%と目標の80%には至らなかった。要因として、関係者評価アンケートの時期と進路指導年間指導計画等の計画・運営面で、今後の育成に課題が残る。全般的には、発達段階により指導の仕方は異なるが、「教育目標」を3年間で達成させようとする教職員の意気込みが伺われる。

保護者および地域については、組織的に「学年だより」（各学年とも週1回発行）やホームページ等で広報活動に取り組み、特に、地域82%（29年度66%）と船橋希望学舎の活動等、丁寧な説明に心がけており、重点目標が行動に反映されている。

校長講話及び「学校だより」、そして、教職員の日常生活や特別活動等の働きかけ等の取り組みで、生徒は学校教育目標を意識して行動しようとする姿が見られ、さらなる浸透が見られる。

II、地域との連携・協働による教育について

○保護者・地域との連携

(1) 地域運営学校（学校運営委員会）

保護者・地域とも「地域との連携について」(4)で評価した。

学校運営委員会の活動について様々な課題を協議し、多くの場面で協力をいただいている姿について十分な情報が提供された結果、世代交代を乗り越え保護者・地域ともに認知度が向上し、多様な意見を反映して運営されていることが窺える。

(2) 学校協議会等

保護者・地域とも、「地域との連携について」の(3)の項目で評価した。

保護者は、学校協議会や合同学校協議会の活動について十分な情報が提供された結果、「特に評価が高い項目」である。

地域は、昨年度と同様本年度も「5（3）よく役割を果たしている」で評価したが、86%（29年度 66%）と十分な情報が提供され、大きく改善された。今後も、エリア教育の中核である船橋希望学舎として3校合同の活動内容や必要性について、さらなる情報の発信をしていただきたい。

(3) 地域の人材や施設の活用

保護者・地域とも「地域との連携について」の(1)で評価した。

保護者・地域とも、高い評価を得ている。「ふなきぼサポートクラブ」の組織的・計画的な活動が定着しており、保護者・地域と教員に十分な情報が提供された成果である。

(4) 地域行事等への参加・協力

保護者・地域とも「地域との連携について」の(2)で評価した。

保護者・地域ともに、「学校が地域の活動や行事によく協力している」の肯定的評価は、保護者 87%・地域 94%と高く、学校と地域が良好な協力関係にあると認識している。

保護者・地域との連携は、全項目で高い評価である。

伝統ある「子どもぶんか村」の行事をはじめ、「ふなきぼdeフェスタ」等、世田谷区「学校支援本部」として、学校支援コーディネーター等と相互の協力体制を図り活動した結果である。今後も、生徒が地域の一員としての自覚と故郷への誇りをもって活躍できるよう、活動内容や必要性について関係諸機関へ随時発信していただきたい。

Ⅲ、「世田谷9年教育」で実現する質の高い教育の推進について

1、学習指導

生徒及び保護者は、「1 学習指導について」の4項目で評価した。生徒・保護者ともに「評価が高い項目」で、学校の取り組みは良好である。

生徒の学習指導全般については、全学年「特に評価が高い項目」である。生徒は現在の学習指導に満足している。特に、生徒全体で「肯定的評価」の割合が80%を超えているのは、学校経営方針2－（1）学習指導（ア）教科等①～⑦が実践されていることによる。

生徒は、「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫し、わかりやすく指導している」は90%と、教員の日々の実践を通して、多様で質の高い学びを個々の生徒から引き出すことを意図した授業をめざし、工夫・改善した成果である。

教職員の自己評価も、昨年度と同様高い評価で、4校合同学習確認会議や授業改善の取り組みが進んでいる。ここ数年にわたり課題である授業の開始・終了時間については、昨年度より改善されてきているが、否定的評価の割合に学年により課題がある。日常の授業の状況

については、社会のルールを指導する立場として、なお一層の改善を図られたい。

保護者は、全般的に学習指導について肯定的な評価をしており、「(1) 子どもにとってわかりやすい授業をしている」79%(75)で、生徒は、「(1) 授業の内容はよく理解できる」87%(88)と高い。しかし、保護者は、「(2) 授業を通して生徒に学力がついている」73%(70)と期待値と異なる状況である。また、「(3) 通知表で評価されたことは納得できる」77%(82)と学力に対する認知度は高いが、保護者の学習内容や学習指導に対する期待に若干応えられていないことに課題がある。

評価基準・各教科等の観点別評価について、4月の保護者説明会や学年集会等だけでなく、生徒には授業の際、保護者には、機会あるごとに詳しく説明し、周知する必要がある。昨年度から「学年だより」の充実により、各学年とも家庭と学校との連携が図られた成果が現れているが、学年進行とともに評価が低下していることに課題があり、さらなる理解の涵養に努めていただきたい。

「平成29年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策」の「3 新たな教育活動の推進と理解」で、一昨年度から実施の各教科の学習において「主体的・対話的な深い学び」(アクティブ・ラーニングの視点に立った授業)を展開され、研究主任を中心に小中合同授業や新たな教育活動が粛々と進められている。より高い水準をめざして、司書教諭と学校司書の連携のもと、グローバル社会に対応した学校図書館や日常的な情報通信技術(ICT教育・特にタブレットPC等)を活用して、学習指導の工夫・改善と教育環境の整備を図っていただきたい。さらに、個に応じた指導の充実を図り、創意工夫を期待したい。

また、学習に関して、まだ理解が十分でない生徒への対応として、繰り返し学習や質問教室、放課後学習支援、土曜補習(3年生)、夏季補習教室等、さらなる個に応じた指導の充実を図り、なお一層の創意工夫を期待したい。

2、生活指導

生徒及び保護者・地域ともに「生活指導について」の3項目で評価した。

生徒は、3項目とも肯定的評価の割合が高く「特に評価が高い項目」である。生徒は学校の規則を守って行動し、教師の指導に納得して学校生活を送っている。教職員の自己評価から社会の一員としての自覚や生活ルールなど、生徒へのきめ細かな指導を実践していることが伺え、生徒自身の規範意識の高さが、評価の高さに反映していると考えられる。

生徒の教育相談活動に関しては、Q-U調査の実施、活動等を通して心の教育の充実を図り、青年前期の心の変化をとらえ、常に生徒が安心して学校生活を過ごせるようきめ細かな指導にあたっている。さらなる相談しやすい環境づくりとカウンセラーや支援員等、多くの人が生徒とかかわる体制づくりのもと、継続していただきたい。

保護者は、個別の学年では課題があったが、全般的には「評価が高い項目」である。中学校生活指導の内容や方法に対して、保護者の理解が深まっている。

地域は、生徒について肯定的評価が高く、地域での生徒の状況は極めて良好である。また、「学校行事に対して協力的」94%であり、教員の地域での行動も高い評価を得ている。しかし、教員の自己評価では、地域行事への協力・PTA活動等への参加については、今一步であることは否めない。

今後も、危機管理マニュアルの見直しを行い、多面的な生徒理解や内的要因等の把握の深

まりをとらえ引き続き指導するとともに、各家庭で指導すべきところは指導し、学校・家庭・地域が協力して生徒の健全育成に努めていただきたい。

3、学校行事

生徒は「3 学校行事について」の3項目と「8 重点目標および数値目標（独自項目）」の(6)で、保護者は「3 学校行事について」の3項目と「12 重点目標および数値目標（独自項目）」の(2)で、地域は「2 学校行事について」の3項目と「7 重点目標および数値目標（独自項目）」の(2)で評価した。

生徒・保護者・地域の学校行事の項目は、毎年「特に評価が高い項目」である。生徒は、活躍するチャンス（場面）が多く、行事を楽しみにし、保護者は、子どもたちが活躍している様子等から学校の取り組みを評価している。また、地域からも船橋希望中学校の学校行事が高く評価されている。「学校行事に対しての内容は充実している」が、今年度、100%であることから伺うことができる。これは、教職員が生徒の主体的な参加や行事の工夫・改善に取り組んでいる成果である。

4、キャリア教育・進路指導

生徒は、「4 進路指導について」の3項目で、保護者は、「4 進路指導について」の4項目で評価した。

生徒は、昨年度と同様、他の項目に比べて低い評価である。(1)「将来の生き方や進路について考えさせる授業がある」について、副教材「私たちの進路」の活用方法を工夫・改善し、全教育活動を通して日常的に「将来の生き方や進路」について考える機会を設けた結果、肯定的評価 82% (87)、否定的評価 18% (13) となった。また、(2)「将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分ある」64% (60) と全学年で若干改善され、教職員の自己評価も高いが、生徒の否定的評価は、24% (27) であり、実感していない生徒も多い。特に1年生は、否定的評価が 31% (38) で「分からない」と回答した生徒が 21% (20)、2年生の否定的評価も 33% < (1) 38 > で、課題が残った。(3)「進路に関する情報が十分提供されている」も同様に、肯定的評価 67% (69)、否定的評価 20% (21) である。また、「分からない」の割合が1年生 20% (18)、2年生 15% (12) と、課題が残った。

ただし、いつでも相談できる雰囲気づくりと、上級学年が行っている進路の取り組みを「学年だより」等で紹介するなど、より一層の周知を要する。保護者は、4項目とも「評価が高い項目」となったが、社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力の育成について具体的なキャリアイメージをもたせ、生徒自ら学ぶ態度をはぐくむことについては、いま一歩である。また、進路相談については、1・2年生で個人面談など相談の機会があっても効果的に活用されておらず、「分からない」の割合が高い。系統的・計画的なキャリア教育を推進するための3年間にわたる全体計画の周知と累年ではあるが、アンケートの時期等も課題である。

また、学校経営方針「2 (3) 特別教育」にある「障害のある生徒の自立をめざして、生徒一人一人の能力を最大限に伸長する」に関して、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の、さらなる充実と支援体制の整備を図っていただきたい。

5、体育・健康教育・食育

保護者の「11 学校全般について」の(4)で評価した。

一昨年度、昨年度に続き、学校教育全体で計画的・継続的・組織的な進行に努め、高い評価である。

6、世田谷9年教育

生徒は、「7 学校全般について」の(3)で、保護者は、「8 広報活動・情報提供について」の(5)と「9 地域との連携」の(5)で、地域は、「4 広報活動・情報提供について」の(5)で評価した。

生徒は、「船橋希望学舎」の区立小学校（船橋小・希望丘小・千歳台小）との交流について、「あいさつ運動・小6見学会・学芸発表会」等の一部の生徒は関与しているが、否定的評価34%（39）、「分からない」22%（21）であり、生徒全体の交流は、いま一歩である。

保護者は、「学舎」の活動について、生徒の「あいさつ運動」や各小・中学校のPTAの交流や講演会が行われ、保護者に「学舎」が十分に認知され、情報提供についても、「8 広報活動・情報提供」の成果で、昨年度より改善されてきている。また、教職員の小・中相互の授業参観や合同研修会等により連携体制が充実してきている。しかし、一昨年度より生徒の否定的評価が高いのは、全校生徒が、本校を会場に3校合同研究・研修活動を目にする機会が少なくなったことや児童・生徒の交流が得にくいことによると考えられる。地域を含め、連携・協働方法の工夫・改善とさらなる情報発信を継続していただきたい。

7、特別支援教育

インクルーシブ教育システムの推進に向け、多様性を尊重する態度の育成や障害のある生徒たちとの交流及び共同学習を実践する。

「きぼう学級」は、次年度から支援体制の段階的変化が生じる。施設・設備の有効活用と総合的な支援体制の整備を図っていただきたい。

8、部活動

生徒・保護者は、「5 部活動について」の3項目で評価した。

生徒の部活動全般についての評価は、複数顧問制等を採用して企画・運営面において工夫されてきており、肯定的評価87%（87）と昨年同様高い評価である。また、校庭・体育館等を含めた施設の面や中学生として望ましい部活動の回数と時間についても、スケジュールの再考等を通して、生徒全体の理解が深まってきている。

保護者は、部活動が全般的には適切な指導のもと充実しており、生徒が活躍していると感じている。

教職員は、自己評価での部活動の活発さの肯定的評価が高いが、昨年同様、組織的実施の評価が若干低い。また、教職員は「働き方改革」を視野に入れ奮闘しているが、思うような時間が取れない状況にある。外部指導員や支援員等を活用する取り組みを継続し、課題解決に努めていただきたい。

IV、信頼と誇りのもてる学校づくりについて

1、学校経営・学校運営

保護者は「6 学校運営について」の(2)と(3)で、地域は、「3 学校運営について」の(2)で評価した。

学校経営・学校運営に関しては、「学校全体にかかわる広報活動の充実」の取り組みの成果で、年々肯定的評価が向上し、保護者・地域から高い評価を得ている。

校長のリーダーシップによる全教職員の共通理解と共通実践等、学校の総合的チーム力を発揮し、教育活動を活性化させ組織的に学校運営や教職員の指導にあたることにより、学校の取り組みや教職員の姿勢が高く評価されている。また、教職員の自己評価からも校長を中心に教職員が協力して教育活動に取り組んでいることが窺える。

船橋希望学舎として、学校の主体性・自律性を発揮し、教育活動の成果を基盤にしたカリキュラムマネジメントの実施と「チームとしての学校づくり」を進め、今後も広報活動に取り組み、学校経営・学校運営や教育活動について、保護者・地域に発信していただきたい。

2、教職員

生徒は、「6 先生について」の3項目で、保護者は、「7 教員について」の2項目で、地域は、「3 学校運営について」の(3)と(4)の2項目で評価した。

今年度も、教職員が様々な場面で熱心に指導しており、生徒・保護者ともに教員の指導には満足している。

生徒は、3項目とも昨年同様全学年で評価が高く、年々工夫・改善されてきている。

教員は様々な場面で熱心に指導している。また、聴く姿勢についても、全体として生徒一人一人に丁寧な対応を行っており評価が高い。今後とも、教員が生徒の話を聴く機会の工夫が望まれる。

教員の指導の公平性については、改善されてきているが、その場の状況や対応する姿勢・態度によって生徒の評価は分かれ、昨年度と同様課題が残った。指導場面や対応時の状況によって、生徒個々の受け取り方や感じ方は心の動きに大きく左右されることがあるので、数値のみでの判断は難しい。指導場面でのさらなる工夫と生徒一人一人と丁寧に話す時間や機会を意図的につくり、「心に響く指導」を実践していただきたい。

保護者・地域については、保護者は「8 広報活動・情報提供について」の(2)「本校は、保護者に対し、丁寧に説明や対応をしている」の評価も合わせて評価した。

この項目も昨年同様評価が高く、地域の評価と総合的に判断すると、保護者・地域に丁寧な説明や対応で高い評価を得ている。しかし、保護者の教員と「話しやすい雰囲気」については、昨年同様、個別の学年で課題が残った。平成30年度改善方策「絆を確かに、豊かな人間関係を創る」を実践してきたが、保護者が来校した際には、職員室など様々なところで相談しやすい状況の、さらなる努力をしていただきたい。

3、保健・衛生管理（学校環境・学校給食）

保護者の「10 学校の安全性について」(5)で評価した。

今年度も学校環境・学校給食について、日々の献立内容をホームページに掲載し、学校が生徒の安全確保に努力していることが認知され評価が高い。特に、食物アレルギー疾患の

ある生徒への予防に関する対応や発生時に必要な緊急対応について、丁寧に対応している。

また、一昨年度より「世界ともだちプロジェクト」の取り組みの一環として、学習・交流対象 8 か国の料理を給食で紹介し、国際理解の一助として国々の多様性を尊重することを学んでいる。ぜひとも継続していただきたい。

4、安全管理

保護者は「10 学校の安全性について」の(1)～(3)の項目で、地域は「6 学校の安全性について」の(1)・(2)の項目で評価した。

学校の安全性については、学校で生徒の安全確保に努力していることが認知され評価が高い。また、安全指導・避難訓練や災害時の保護者・地域との協力などについても評価が高く、昨年度と同様に学校の取り組みが理解されている。また、地域の避難所としての役割が十分に理解され、改善されてきている。今後は、地域での救援活動に貢献できる人材の育成やボランティア活動のさらなる活性化に努めていただきたい。

なお、来校者の入校については、危機管理上、再確認願いたい。

5、広報活動・情報提供

保護者は「8 広報活動・情報提供について」(1)～(4)の項目で、地域は「4 広報活動・情報提供について」の(1)～(4)の項目で評価した。「I 重点目標への取組の成果と課題」と同様、「学校だより」、毎週発行される「学年だより」、学校支援組織運営部によるホームページ等で、生徒の様子など様々な情報を確実に発信してきたことで、保護者の知りたい情報が盛り込まれ、高い評価を得ている。また、生徒への指導の場面や保護者会等で丁寧な説明や対応に心がけた結果、学校の様子がよく発信できている。

地域も保護者と同様に、3 項目の改善方策が確実に実施された成果で、肯定的評価の割合が高い。しかし、情報機器の急激な発達によりスマートフォンによる情報交換やホームページへのアクセス数が増加傾向にある。週 1 回の紙ベースによる情報発信は、昨年度を上回り功を奏したが、さらなる情報発信の方法や内容、形態について再考していただきたい。

V、安全安心と学びを充実する教育環境の整備について

保護者は「10 学校の安全性について」(4)で、地域は「6 学校の安全性について」(3)で評価した。

施設・設備の安全性の確保だけでなく、教育環境としての整備が進んだことの認識が保護者・地域に浸透し、高い評価であるが、地域「6 (3)」で「わからない」が 19% (11)であった。施設・設備の不備や変更の状況について可能な限り、保護者・地域への丁寧な説明や広報を願いたい。

VI、学校生活全般について

生徒は「7 学校全般について」の(1)と(2)の 2 項目で、保護者は「11 学校全般について」の(1)～(3)と(5)の 4 項目で評価した。

生徒は、学校全般について、教職員の様々な努力により、生徒が満足していない教育活動もあるが、「とても思う」という評価が 50%前後である。教職員の様々な努力により、

現在の中学校生活に十分に満足しており、今後も生徒にとって、「楽しい学校」82% (85)・「好きな学校」84% (86)であり続けるように、教職員の様々な努力を継続していただきたい。

保護者についても、「子どもは、学校生活が楽しいと感じている」92% (91)で、「学校全体に活気がある」94% (94)と感じている。また、「教育活動に満足している」88% (87)と満足度は非常に高い。

スクールカウンセラーや支援員の役割についても79% (84)と高い評価で、保護者に周知されている。

VII、数値目標(重点目標)の取組について

平成30年度の『「ことばの力」を基盤として、以下の重点目標を達成することを通して、知的活動の質をより一層高め、表現力やコミュニケーション能力の育成を図る。』ことにつき、具体的な3つの数値目標について、それぞれ評価した。

- 1、学習指導要領（H30 先行実施開始）の方向性と世田谷区教育要領を遵守し、指導方法の工夫・改善を図り、「学ぶ喜び」を育成する。

☆「私は、主体的に学習に取り組んでいる」と自覚できる生徒を80%以上にする。

生徒は「1 学習指導について」(1)で評価した。

(1)「授業の内容はよく理解できる」87% (88)で、全学年とも非常に高い評価である。

3年生は「とても思う」の割合が89% (91)を超えている。特に、本年度は、全教職員が先進的に新学習指導要領の内容について研鑽を積み、質の高い授業を実践し、工夫・改善に努めた成果である。しかし、「8 (4) 主体的な学習に取り組んでいる」68% (77)であり、自分ができることを考え実践する力を発達段階に応じて身に付けさせる教育課程上の意義や役割を再認識させる必要があり、目標を達成することはできなかった。今後は、カリキュラムマネジメントの中心となるべき目標について教育課程等を通して実現化する方向をさらに進め、未来社会に対応した情報活用能力や問題発見・解決能力、諸課題に求められる資質・能力の伸長を図っていただきたい。

保護者の「1 学習指導について」は、Ⅲ「世田谷9年教育」で質の高い教育の推進についての項で評価した。

- 2、生徒・教職員ともに人権感覚を磨き、人間のすばらしさを感じ、一人ひとりが「人間愛」に満ちた集団を育成する。

☆「私は、友達など他の人たちを、認め合い、励まし合おうとする気持ちがある」と自覚できる生徒を85%以上にする。

生徒は、「8」(1)～(3)で、評価した。

「(1) 私は、友達など他の人たちを、認め合い、励まし合おうとする気持ちがある」89% (88)と、肯定的評価が高い。3年生は、「とても思う」41% (43)で、1年生47% (29)、2年生33% (40)であり、目標は達成されている。生徒は、他者との協働や外部との相互作用等、対話的な学びを通じて自らの考えを広げ深めていこうと努力していることがわかる。

保護者は、「2 生活指導について」(1)・(2)と、「11 学校全般について」(1)で、評価した。

「(1) 社会のルールを守ることについて子どもたちに指導が行われている」93% (91)と、

「(2) 子どもたちに問題となる行動が少ない」89%(84)、「11(1)子どもは学校生活が楽しいと感じている」92%(91)と肯定的評価は高い。

地域は、「1生活指導について」(1)(2)で評価した。

「(1)通学している子どもたちは、社会のルールを守っている」88%、「(2)通学している子どもたちに問題となる行動が少ない」81%と、肯定的評価が高い。

地域・保護者・学校の連携、協力による集団や社会の中で、自己を生かす集団活動や体験活動が充実し、信頼関係が結ばれている結果であると考えられる。

3、体力の向上を図り、健康を適切に管理し改善していく能力を身に付け、「未来に希望をもって生きる」生徒を育成する。

☆「私は、自分の健康に関心を持ち、体力向上を心がけている」と自覚できる生徒を80%以上にする。

独自項目「8(8)私は、自分の健康に関心を持ち、体力向上を心がけている」70%(70)と肯定的評価が高いが、3年生の26%(26)は否定的である。各学年ともに、目標を達成することはできなかった。

スーパーアクティブスクールとして、生徒一人一人の体力向上のためのプログラムや教材を活用するなど運動への興味を高めることにより、「保健体育の授業は楽しいと思いますか」男子97%、女子94%と肯定的評価が非常に高かった。今後とも、実生活に関連した課題等を通じて、興味と努力し続ける意思を喚起するとともに、健康の保持・増進や生涯にわたってスポーツに親しむ態度を養っていただきたい。

ただし、三快運動(快眠・快食・快運動)を啓発する際に、基本的生活習慣の確立や生活リズムの向上につながる活動を指導の中に入れていただきたい。

VIII、その他

生徒は、Ⅲ、「1学習指導」について満足しているが、知識・技能に限らず「自ら学び、考え、判断し、主体的に行動してよりよく解決する力」については、いま一步である。「8(4)私は、主体的に学習に取り組んでいる」1年生24%(29)、2年生38%(30)、3年生29%(28)と、否定的評価が高い。自尊感情や自己肯定感を高め、自力で課題を追及・探究したことを発表する等の言語活動を充実させ、家庭との連携をより一層深め、生徒一人一人の基礎的・基本的事項の確実な習得を図り、「生きる力」の育成を図っていただきたい。

保護者は、生徒たちが、学校生活全般にわたり活気にあふれ充実した教育活動が行われていることが分かる。

学校や地域での子どもの様子の把握についての4項目は、(1)「子どもたちは挨拶をよくしている」、(2)「子どもたちは、運動会や学芸発表会で意欲的に取り組んでいた」、(3)「子どもたちは、主体的に学習に取り組んでいた」(4)「私は、お祭りに行ったり、子どもぶんか村の活動や発表会に行ったり、地域防災に参加したり、地域活動やボランティア活動に関心をもって」で、学校は保護者の期待に応じて行事等に取り組んでおり、挨拶をすることや時間を守ることにについても、日常生活での指導と学校の取り組みの成果である。

地域は、3項目とも「特に評価が高い項目」で、生徒は、学区域内においてしっかりとルールやマナーを心得、社会の一員としての自覚と行動力を発揮していることが分かる。地域の方々

は、来校頻度が高く、他の項目からも学校の様子に関心をもっていただいていることが分かる。

「8(9) 私は、NIEタイムやNIEコーナーにより、新聞に興味をもつようになった」42%(37)、「8(10) 新聞を読むことによって、自分の考えをもてるようになったと思う」41%(36)。

学習指導要領の完全実施（平成33年度）に向け、「情報収集、整理、発信するなどの学習活動」について、引き続き取り組んでいただきたい。

＜学校への提言＞

本年度の学校関係者評価による課題から、3項目について提言させていただきます。

1、豊かな人間関係づくりをめざし、ものの見方・考え方を深め、自己教育力を培う

生徒の自己有用感や自己肯定感が低い現状について、学習指導要領・世田谷教育要領を基に、船橋希望中・学力スタンダードによる具体的な学習目標を確立していただきたい。

特に、ものの見方や考え方が養われる自主的な学習態度の育成に向け、生徒の多様な体験活動の機会を充実し、年間指導計画による課題探究的な学習と作業的・体験的学習を意図的に取り入れ、態度・能力の涵養に努めるとともに、学習成果の可視化やPDCAサイクルによるカリキュラムマネジメントの確立等、学習環境のさらなる整備をしていただきたい。

人権尊重教育・道徳教育・少人数習熟度別授業＜数学・英語＞・ティームティーチング＜音楽・美術＞・NIE等、研究推進・指定校としての検証実績と今後の継続研究を基に、ユネスコスクール加盟校である持続発展教育（ESD）全体計画の実践年度として取り組みの充実を図っていただきたい。

多様な考え方を認めることができる指導・援助として、生徒一人一人の思考力を発揮する問題解決過程を通して、主体的・協働的に学ぶ創造力、思考力・判断力、そして、表現力をより一層高いレベルで身に付けさせ、物事の本質を極める力を伸ばし、実社会の様々な場面で活用できる汎用的な能力に育てていただきたい。さらに、生徒の言語活動を充実させ「確かな学力の向上」を支える基盤づくりに、さらなる言語活動の充実をめざして自立的に学ぶ姿勢等を養っていただきたい。

2、運動に親しみ、健康に生活する力を培う

「平成31年度重点目標の具体化のための方策 重点目標3」を遂行するにあたり、スーパーアクティブスクール指定校3年間の実績のもと、生涯にわたって運動に親しむ資質・能力の育成と体力の向上、健康の確保、食育の充実を図っていただきたい。

特に、三快運動（快眠、快食、快運動）を啓発する活動を展開し、さらなる創意工夫をしていただきたい。

3、世田谷9年教育『船橋希望学舎』活動の進展

「教職員の研修・研究」は盛んに行われ、「学び舎の日」を活用して研修会等、公開授業・教科分科会が定着し、昨年度同様、児童・生徒の学力向上に大きな成果をあげている。

船橋希望学舎ならではの地域活動等、さらなる異年齢集団による交流活動を活性化させていただきたい。また、児童・生徒一人一人の発達を支える視点から、9年間を見通したキャリア教育の充実についてご検討いただきたい。

<総合所見>

校長の学校経営方針のもと、「主体的な学び」を育てる教育活動を展開し、「N I Eタイム」や演劇活動を通じて、生徒の言語活動の充実と習得した知識・技能を活用して、新たな価値の育成をめざされた。また、学校全体の組織運営等に尽くされたことが伺える。

全体として「特に評価が高い項目」が圧倒的であった。それは、学校・家庭・地域が、伝統に根ざした「よりよい社会を創る」ことを目標に、協働・共有して「平成 29 年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策」を取り入れ、世代交代の中、意欲に満ちた教職員が一丸となって、4つの課題に挑む研究推進校としての研究実績を基に、様々な工夫・改善をした結果であると考えている。

生徒は、活力に満ちた風土のもと「学校生活が楽しい」という肯定的評価が 82%(85)、「学校のきまりを守って行動している」93%(90)、「本校が好きである」84%(86)と、充実した学校生活を送っている。全体として、昨年度の調査を上回る結果であり、生徒は、思春期特有の自意識過剰や妄想にふけることなく、謙虚で、思いやりの心にあふれ、現在の中学校生活に満足し、自尊感情には改善の余地があるものの、誇りと自信をもって行動していることが伺われる。

保護者は、生徒同様、多くの項目で昨年度を上回る結果であった。

一昨年度、昨年度、本年度と「分からない」の割合が高い項目もあった。徐々に改善されてきているが、進路指導と学習相談については、進路指導年間計画等を基調として、教職員の粘り強く、丁寧な対応が望まれる。

地域は、全般的に評価が高く、協力的であり、学校への期待も大きい。なお一層、連携・協働を通して地域を活性化し、地域の核となる学校として、さらなるエリア教育の推進に期待したい。

教職員の自己評価については、生徒の変容をしっかりと捉え、自己点検を行っている。『笑顔あふれる職員室』として、教職員が様々な工夫・改善を重ね、「チームとしての学校」体制のもと実践してきた財産を、日常の学校生活に活かしていただきたい。

今後とも、「知・徳・体」のバランスの取れた教育活動と教育環境の整備等を行い、生徒にとって「好きな学校・楽しい学校・誇れる学校」であり続けるよう、期待を寄せております。

<学校関係者評価委員>

委 員 長	鈴木 滋	(事務局) 副 校 長	小杉 英夫
委 員	阿部 由岐子	教 務 主 任	大居 純
委 員	加藤 伸昭	第 3 学年主任	市川 義文
委 員	坂田 真友紀	第 1 学年主任	山本 浩靖
委 員	宮幸 朱美		